

地域連携の基本的なとらえ方・活動の展開方法

日本看護協会常任理事 井伊久美子

1. 地域連携の必要性を考える

【例えば生活習慣病予防において】

人々が生活習慣を改善しようとするときに、多くの人々が当たり前と思っている疾病観や世間体、固定観念等の共通の阻害要因があります。人々が持っているこのような認識を変えていくことが、地域で生活習慣病や健康づくりに取り組む上での大きい課題となります。生活習慣病予防の支援というと、個々に応じたきめ細やかな個別指導が強調されますが、個々の人々の生活は、その人を取り巻く地域のつきあいや仕事のあり方、価値観などの影響とは無縁ではありません。現在では、このような認識の修正や価値観の変化を意図した活動の展開がポピュレーションアプローチの取り組みとして期待されています。

【例えば育児支援において】

育児支援においては、都市化・核家族化に加えて地域の間関係の希薄化などによる、子育て中の親の育児に対する不安感や負担感の増大、育児の孤立化等の課題が挙げられています。その対策として、こんにちは赤ちゃん事業（生後4か月までの全戸訪問事業・育児支援家庭訪問事業）が開始されましたが、全戸訪問による直接支援というより、すべての母親が身近な地域の誰かと何らかのつながりを持つ、また一般のより多くの人々が地域の子育てに関心を寄せる機会を提供するという点で大きい意味があります。

2. 地域連携の展開方法

地域保健においては、健康推進員等の地域住民の参画を前提に、「健康づくり活動」「こんにちは赤ちゃん事業」等の保健事業や様々な健康講座の開催、計画づくりがすでに取り組まれています。地域住民の主體的な発想や行動を重視して、地域全体を見渡せるような視野を持ち、人々のつながりを強化することで、健康行動を促そうという取り組みです。

そして、多様な人々の参画を支え、個々の人々の貴重な経験を他の人々に生かして行くような活動に展開していくには、関係の専門職や組織の連携が不可欠です。お互いに連携するためには、その地域で何が起きているかを共有することが重要です。

実際の試みについて話題提供します。

【井伊 久美子（いい くみこ）先生 ご略歴】

- 1979年 日本赤十字中央女子短期大学 看護科卒業
- 1980年 神奈川県看護教育大学校 保健学科卒業
- 1980年 東海大学湘南校舎健康管理センター
- 1982年 日本赤十字社医療センター成人保健部
- 1984年 横浜市港北保健所
- 1989年 国立公衆衛生院専攻過程 看護コース修了
- 1992年 国立公衆衛生院専門課程修了（Master of Public Health）
- 1993年 兵庫県立看護大学 講師（地域看護学）
- 1997年 兵庫県立看護大学、大学院看護学研究科看護学専攻 助教授
- 2004年 兵庫県看護大学大学院博士後期課程修了
- 2004年 兵庫県立大学看護学部・兵庫県立大学大学院看護学研究科 教授（地域看護学）
- 2007年 （社）日本看護協会 常任理事就任